

平成 18 年度 第 2 回(仮称)芦屋市市民参画センター設立準備会議 会議要旨

日時	平成 18 年 11 月 10 日 (金) 15:00~17:00
場所	芦屋市役所 北館 2 階 第 2 会議室
出席者	副委員長 国枝 哲男 委 員 上野 義治・海士 美雪・加藤 純子・今村 千頭 宮平 太・大橋 義裕 欠 席 外園 一人 事 務 局 福島市民参画課主査
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <非公開・部分公開とした場合の理由>
傍聴者数	0 人

1 議題

(1) (仮称)芦屋市市民参画センターについて

2 審議内容

(副委員長)

前回の会議から、第三者的でなく、私たちににできること、どんなお手伝いができるかを考えてきた。芦屋のNPOを中心に動くのが普通だと思ってきたが、3年間の会議の流れを見ると、ここでコンペをしてNPO団体にと言うやり方は難しいのではと言う声が多い。私たちが所属するCS神戸は神戸で、大阪ボランティア協会は大阪なので、芦屋では、地元の人を支援する立場であると思っている。芦屋市民に参画条例のことが、あまり浸透していない印象がある。また、芦屋市社会福祉協議会の実情は聞いているが、あまり活発ではない印象がある。

私たちが、組織として関わるとなると機関決定をしなければいけないので、センターの支援については組織に諮る必要がある。CS神戸としては、芦屋市に3年間かかわってきたので、大阪ボランティア協会と連携してセンターで人と組織を作る支援をしていくことはできる。中心に芦屋の人がいて、それを支援していく。センター長が形だけの人か、市民と対話できる人かで市民の印象はととも変わる。核になる人が、キチンとしていないといけない。大阪ボランティア協会なり、CS神戸なりが芦屋に来てセンターの支援はできる。委員長は、センターの職員を公募することに反対しているが、仕切り直して新たに自分たちで集まって中間支援組織であるNPOを作り上げる話しを何度も話し合うことが必要だ。市民には、新たなNPOを作りセンターを運営する方が見えやすい。「芦屋らしいNPO」を19年4月から6カ月かけて議論しながら作り上げる。新たに作った委員会を議論の場として色々なことを決めていく。2~3年かかるかもしれないが、限られた資金の中でも、

こんな形であれば、団塊の世代の退職者もどんどん、参加しやすいと思う。

(委員)

大阪ボランティア協会としては、直接入ってよりも後方支援すべきであると結論がでた。元々支援することについては大賛成。このセンターは市民社会の構築である、ただ大阪から出張ってくるのは市民が育たない。最初に失敗すると修正が難しい、かと言って誰もいないから人を雇って進めましょうかと言うのも官設民営でなかったのと疑問に思う。来年4月のオープンであれば、この会議でどんどん意見を出して行ってある程度の組織を作っていないと思う。

(副委員長)

組織として関わるとなると、組織決定が必要になるが、その時神戸の中間支援組織が、なぜ芦屋市に関わるのかについて必要性とか、時期を考えて、お手伝いすることに問題ないか。本当に芦屋市にないのが、神戸市にある組織なので、理事の中には知っている人も知らない人もいる。しかし、CS神戸としては、これまで3年間関わってきたので、これから関係ないと言うのは無責任な気がするので、CS神戸と大阪ボラ協は連携して支援する。

ただし、私たちがセンターの中に入って「ああしろ、こうしろ」と言うのではなく、「そこに人を作りたい、そこに組織を作りたい」そう言う事を支援したい。朝から晩までいて、「アレもしましよ、コレもしましよ」じゃなくて、芦屋の人がいて、「こうしたら良いんじゃないか、ああしたら良いんじゃないか」と言う、そう言った支援をすべきではないのか。神戸市で指定管理者で仕事をしているが、そんな担当者でもNPOは無償のボランティアと思っている。何かする時に、人が動けばお金がいる。今でもお金が出ているのだから、そのお金をキチッとうまくやってくれば仕事ができるという話が中々通じない。ボラ協もCSも支援するが無償では出来ない。コンサルなりアドバイザーなりで、予算を付けていただけなのですかとか、全体の予算の話を含めて、作り上げないといけない。

NPOの立場から言うと、センター長を置いて、例えば常勤スタッフ2名置いて、そこに市民参画課から1名の4名体制の時に、センター長の立場の人が形だけで立派な人が「ウーン、良いじゃない」といった人が必要なのか、またはセンター長が自ら自分の事として市民と対話して、話し合っていく人かによってセンターの形も大きく変わる。そんな時に、例えば、腰掛程度に偉い人が、もしセンター長に来た時に、確かにお金が掛からないが、実際動くのはスタッフ、でもそのスタッフもNPOの事をどれだけ分かっていて、参画センターの事をどれだけ分かっているのか、そう言う人を作り上げないといけない。急には難しいが、リーダーというか、核になる人をキチンとしないと中々前に進まない。30歳代40歳代でシッカリやろうと思うと600万円位いるかと思ったが、NPOで600万円なんて考えられない。そういうような市民参画課ではないよね。現役で無いならソコソコやってもらえる。支援すると言っても誰を支援すれば良いのかによって違ってくる。

(委員)

スタッフの公募については、公募すると色んな人が来て選考するのも大変だろうし、お願いしたとしても後でもう結構ですとも言いにくい。でも、そんな時でも指名にしたいがそれはダメだ。公募して、市民にこういう事態を分かっているなければ、知らせる事から始めないといけない。推進委員会だけで勝手にやると、恐らく浮いてしまい良くないと思う。

(副委員長)

公募が良いのか、指名が良いのか意見が分かれる所だ。ここにいる皆が、まだヨチヨチ歩きだが、育て甲斐があるなあと認める人であれば指名でも良いが、果たしてそんな人が出るかどうか問題だ。やっぱり早急に人を決めるのは止めよう。推進委員会でそういう思いのある人が集まってNPOを作って、ここでNPOを作って、ここに集まった人たちでやって行く。理事で関わるのか、スタッフとして関わるのかは、これからそのNPOに神戸や大阪での経験を入れながら「芦屋らしい」ものを作って行く。毎月一回とは言わず、出来れば毎週でも話し合いの場を持ちながら、色んな意味で「ああしょう、こうしょう」と詰めていけば、そこに人が育って行くであろうし、そこに希望だが団塊の世代の人がドンドン入って、こういう中でもまれていければ。

(委員)

委員会で決めていけばよい。委員会も4月以降見直しをしても良いのでは。例えば、もっと人を増やしてもよい。4月からNPOを作ってこのセンターを運営して行く方向を模索しながら、まずは常勤スタッフをこのNPOの活動の一環としてやっていく。センターの方が、よく市民に見えやすいし、より参画しやすい。こういう議論をこの会議の中で話し合いながら考えて行きたい。その中で、皆の総意で理事を決め、理事長を決め、スタッフを決めて行きたい。6ヶ月位かけてジックリとNPO法人設立に向けて、この委員会で。その様なやり方だと、必然的に公募になるが、公募するにしても、具体的にもう少し情報があったら、新しい芦屋らしいNPOができる。

(委員)

4月にオープンということだが、オープンの仕方はホームページ上でオープンしましたという事もある。例えば、オープンした時に、誰が代表ですか、責任者ですか、窓口ですかと聞かれる。むしろ、オープンまでに、この会議を何回も開いて、仮にでも良いから組織を作らないと。具体的に、この人が中心に動いてますよ、と言うのは市じゃなくて、皆さんです。私たちは、アドバイスする立場にあるので、答えるのもおかしい。仮にNPOを作る事を前提としても、ある程度組織は作っていかなければ。その人たちがやっていますよと、作るのは3月までにしなければ。何ぼ9月に向けて法人格と言っても、4月の段階には何か作らないダメ。それをこの会議で詰めていかないと。

(副委員長)

そう言うNPO法人であれば、特に問題ない。私たちは組織で参加するのではなく、個人として参加する。NPOを作ったらズーッとやりたい。その時は、他市の市民であっても関係ない。そこに芦屋の人が多く集まってくれば、「理事は何すんねん、監事って何やねん」そんな、本当の話ができる。普通のNPOでは、そんなことが出来ない。たいがいは、理事長が「あんなんやってくれ、こんなんやってくれ」といった形で集めている。殆どの人は動かない。本来はNPOの理事で、広報担当・財務担当とか色々な任務を作らなアカンが、NPOの理事は何もしない。そう言う意味で本当の、行政の支援も受けて「すっぴん」から作れるNPOは素晴らしいし、面白い。

(事務局)

市としては、初めは何もないということから、CSさんなり、ボラ協さんなりに丸ごと受けてもらえないかとお話したが、他市に入るといことで中々難しい点があるということなので、そうしたら「どないしょう」となって、パブリックコメントも市民に浸透していない、それを拙速に進めれば、また市が勝手に作ったと空回りして、市民のものにならない。そうかと言って待つて公募したとしても中々良い人を探すのは難しい。そこで、折衷案ではないが、半年間は箱を作って、10月を目途にNPOを作ってやってもらうという形になった。できれば、推進委員だけではなく、外部にも伸ばしていかないと、市内で活動している人もいっしょやる。いくつか市内に団体があるが、このセンターを中心にしてウィングを広げて参加してくださいという中で組織を作り上げて行くのが市民にとって市民のものになる。

もう一つの大きな命題として、4月オープンがある。4月にオープンするが、半年間は市職員とアルバイトで。目標としては半年で立ち上がるNPOにそれ以降の運営をしていただく。それまでは、推進委員の皆さんが設立に向けて集まってきて、自分たちが動くという形をお願いしたい。今までは、行政が先に先にとしていたが、これからは市民の方が中心に活動して欲しい。市民であれば、どなたでもやりたい人にドンドン入ってもらって皆で作り上げて欲しい。

(副委員長)

たくさん来たら、正会員は会費がもらえる。会員がたくさん増えたら自主運営ができる。

(事務局)

行政の支援もいつまでもにはならない。3年とか5年とか区切って、そこを目安に自立していただく。その間に組織を固め、体制も固めて、3年経ったら市から言われなくても自分たちでやれる。そう言うものを目指したい。ただ、その時点でムリであれば、その時に協議が必要かとも思うが、目安を作っているいつまでもズルズルは良くない。

(事務局)

4月のオープンだが、市民が望むセンターでなければならない。新しい方式というか、皆が集まって一から徹底的に話し合ってNPOを作って欲しい。作るにあたっては、いついつ法人化と言うキチッとした日程を提示して欲しい。市は出来るだけの支援をする、完全な民営化まで3年乃至5年の内に段階的に補助金や業務委託すると思うが減らす額もキッチリ提示して、自立して欲しい。4月からスタートするが、市民の望みは総合スーパーだが、半年間は食品だけ売りますとか、段階的に広げて行きたい。そこに行けば何が手に入るかをキチッとPRしていきたい。なおかつ、そう言う事があると分かればドンドン参加者が増えてくると思う。なぜなら、市の窓口で、男性が殆どですが、NPOを立ち上げたいとか、今準備していますとかでやってくる。非常に人材は厚いのではないかと考えている。まず、するにあたっては、3月末までにホームページの立上げをしたい。近々する団体調査の中でホームページにアップしてよいかを聞いてOKならば、そこで団体を紹介する。後の修正については、4月以降NPOの皆様にお任せしたい。ホームページの準備とかセンターの備品とかは市が用意する予定。

(委員)

どれだけ市民の参加があるかによって大きく変わってくる。

(委員)

半年の間に、PRを何度もしていかないとダメ。細々とした事でもいいからセンターに足を運んでもらえるような仕掛けが必要。

(事務局)

例えば、広報紙に市民参画の特集号を出すと言う事も必要ではないか、パブリックコメントもあまり理解されていなかったようなので、出来るだけ広報していかないと。あとセンターの経費ですが、19年度は県民交流広場事業の事業としてお金が入るので、センターで担当してもらって、コーディネーター経費として渡す事も考えている。広場事業については、センターの事業としてやってもらいたいと思っている。また、今後市の中の仕事で参画協働の分は整理していきながら、センターで受けていただきたい。

(委員)

団体の登録料はどうするのか。

(副委員長)

当面はなしでも構わないのではないか。

(事務局)

地域福祉計画での参画協働の位置付けについて、その中心に社会福祉協議会のボランティアセンターとして、多くの項目が挙げられているが。

(委員)

今のスタッフでは難しい。

(事務局)

社協は福祉ボランティア以外の分野について関わっているのか。

(委員)

今のところ、手は出せていない。県のボランティア・プラザからは手を広げなさいとは言われているが、中々出来ていない。県社協からは、参画センターが出来たらうまく連携を取りながら、どういう役割を担うかについて、よく協議するように言われている。社協の在り方も変わってくる「ウチはこうですから、ソッチはご自由に」とはならない。

(委員)

以前、総合福祉センターの話があったが、それが飛んでしまったようだ。総合福祉センターを作らずに、参画センターを先にと言うことで怒っている人もいた。

(委員)

あと、芦屋には男女共同参画センターもある。その違いが分からない。

(事務局)

16年度の指針検討会議の時は、男女参画の課長が関わっていたので、ある程度連絡を取り合っていたのだが。今後はよく調整して行きたい、男女参画には男女参画の意義がある。

(事務局)

自治会とNPOとの連携を進めるためには、何が必要か。

(委員)

まったく性質が違うので、どうすれば良いか戸惑っている。また、自治会といっても各自治会によってやり方がまったく違う。当然やっていると思っていた事でも、他はまったくやっていない事もある。

(事務局)

例えば、研修会とか講演会とか、自治会とNPOとの交流の場を設定して、お互いにどう連携して行くのかという形で良いのか。また、こういう会議の中の自発的な意見から進んでいったら良いのか、手法は二つある。会って話をしなければ始まらないと言うのが実感だが、どうすればよいのか。しかし、自治会抜きでは、このセンターの意義が薄れる。

(委員)

地域福祉計画の中では、自分の町の事を報告したが、他の町はまったくやっていなかった。まずは勉強会から始めないとうまくいかないのではないか。

(事務局)

NPOも充実している所からそうでない所まで様々だ。研修会なり講演会なりの後の会議で、ある程度質を高めていかないと相互に理解出来ない。以前聞いていたのは、自治会でイベントをする時に、NPOに手伝ってもらえないかと言うことだった。そんな連携が先ずはスムーズかなあと思う。

(委員)

大原集会所でほんわか・カフェというのをやっている。そこでイベントをやる時に、例えば芦屋川カレッジで教わった事を説明してくれないかという要望はあるが、接点がないのでうまく回転しない状態です。

(事務局)

以前にNPOを集会所に紹介した事があるが、あまりうまく行かなかった。センターがコーディネートすれば、うまく行くと思う。そのあたりをセンターで担ってもらえれば。また、公民館でやっている講座等もセンターでやってもらえないかという思いもある。そのあたり行政は弱いので、そういう講座やイベントにたけた方にやってもらえればよいと思う。

(事務局)

ニーズを調査して、センターがキッチンと自治会に繋ぐ、何かあったら先ずセンターに相談に来てください。そういう付き合いにしていきたい。

(事務局)

法人化するなら枚方市とか高槻市に視察に行くべきだ、芦屋と同じような経緯で法人化している。特に、高槻は一度見に行かないと。

(委員)

法人化は両刃の剣になる。一つは、シッカリした組織運営体制を持たないと法人化した意味が無い。しかし、あんまりガチガチの運営になると、市民に開かれたものが閉じられてしまう。柔軟な組織なりガバナンスをどうしたらよいか難しい。期待しているのは、自治会に対して外に開く窓口になる事だ。社協には、もっとフリーな良い人材を発見していただける窓口になって欲しい。

広島の方で、参画センターを作ったところ、大変熱心な担当者がいて、ボランティアセンターから人が移ってきて、ボランティアセンターがガラガラになってくるところまで来ている。利用者は、何かのメリットを求めている。

(副委員長)

色んな先輩の問題点を聞いた上で、私たちがNPOを作る。定款から、人材から、事務局から、資金体制から手作りで。トップが勝手にやっていると周りは皆知らん顔する。出来るだけ多くの人に集まっていただいて、3月までこの様な会議を頻繁に開催し、手作りで作って行きたい。今から9月まで約1年、1年かけてそう言う話をしたんだという実績が良い。早く集まっていただいて、会議を充実させていけば、1月からの立ち上げも楽になるし、4月オープンになった時には、かかわった皆が半日なり、1日なりローテーションを決めて各々の特技を生かして相談にあたれば、ホームページに何曜日はどんな人がいるかを出していけば、市民に選んでもらえる。そんな広がりが出てくると手作りのNPOセンターになる。その中に社協も自治会もドンドン入ってきて欲しい。

(事務局)

色んな相談を4月のオープンイベントで打って、入り口を入りやすくしていけば、本当は入りたいけど入りにくい人でも「ちょっと入ってみようか」という気にさせる。

(委員)

最初からは難しいが、無料は止めたい。お金を出している事で参加していると言う意識を持って欲しい。

(事務局)

NPOの会があったが、無料の相談会は止めようとなった。ワンコインでも、せめて500円は出そうと。それ位の気持ちで来て欲しい。むしろ、それ位のほうが、値打ちのあると言う期待を持って来てくれる。

(委員)

何でもタダと、思われたらダメ。

(事務局)

有料無料については、委員会で論議を積み重ねて決めていけば。

(委員)

いくら思いがあっても、ノウハウが無いから NPO が出来ない人が多い。どうしたら良いか分からずに何回も書類を書いている。

(事務局)

センターでボランティアグループや自治会や NPO が出会う訳ですから、そこでの交流や会議でドンドン深まっていけば。

(副委員長)

ホームページの内容は。

(事務局)

まだ決まっていない、内容の中心になる団体調査がこれから。

(副委員長)

神戸でやっているホームページは、神戸市が 50 万、私のところで 50 万の 100 万の事業。NPO が委員会形式でソフトを作り、神戸市が場を提供している。勝手にやるのではなく、一緒にやらないと。

(事務局)

ぜひ一緒にやっていただきたい。市のホームページとはリンクして、クリックすれば参画センターが出てくると言う形にしたい。4 月から大きく外へ広げたい。

(委員)

3 月末まで、この会議で話し合う。4 月からは、組織がどうなるかわからないが、フリーであっても参加したい。

(事務局)

今後の予定

- ・ 第 3 回準備会議 12 月 7 日 (木) 15 時～17 時
- ・ 第 3 回アドバイザー会議 11 月 29 日 (水) 10 時～12 時 北 2 階第 4 会議室
- ・ 第 7 回推進委員会 平成 19 年 1 月 11 日 (木)

(副委員長)

今回は、以上で終了する。